

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572408714		
法人名	医療法人 清流会		
事業所名	グループホーム野崎		
所在地	秋田市河辺三内字野崎35-4		
自己評価作成日	平成23年1月31日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の郊外に位置して2ユニットで構成、四季折々の自然が体感出来る場所に立地しています。又、当、事業所は医療法人であり常に医師との連携が出来、入居者様に状態変化がある場合はすぐに対応できるようになっています。全員で考えた理念「安心、愛情、安全」を共有して入居者様一人ひとりの個性を尊重し、又、レクリエーションでは歌、軽体操、音読など入居者様全員が毎日楽しく参加でき、心身機能の維持を図る事を目標として支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るい日差しが事業所内に差し込み、大きな窓からは太平山の雄姿が眺められ、川のせせらぎや公園で遊ぶ子供たちの声、散歩時に交わす地域の方々との会話等、四季の移ろいを間近に感じながら、地域に根差した事業所作りが行われています。利用者が、近隣の方々や家族との絆を大切に交流ができ、安全で安心ある生活ができるように、愛情を持って接することを理念に掲げ、実践されています。利用者の明るく元気の良い会話、やさしく見守る職員の笑顔が印象的であり、常に利用者本位に接している姿が観られました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成23年2月23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示し常に目に触れるようにしている。理念の心を持ち仕事に生かしている。	今年度、新たに「安心・愛情・安全」を事業所理念として全職員で話し合って作られております。近隣や家族との交流をすることで、安心に繋げていこうと考え、実践に繋げております。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事への参加を働きかけ地元のボランティアや学校等の協力を得、地域との交流を図っている。又、避難訓練の協力等の要請も実施し、交流を図っている。	散歩時の挨拶や公園に遊びに来られる子供の訪問、事業所行事である敬老会に中学生やその父兄、夏祭りにはボランティアや地域の方々を招待、また防災訓練に協力をいただく等、日常的に交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進協議会等で地域の方に伝える機会をつくり地域の人々に認知症の理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの行事、利用者の状況等を報告し、意見交換の場を持ち、記録に残している。又、改善等の協議をしサービスの向上に繋げるようにしている。	地域にも密着する避難訓練や防災設備について、また、敬老会や夏祭りに対する意見や要望、利用者への地域や家族の思い等々、忌憚りの無い意見交換が、記録にも残され、サービスの向上に活かしております。	運営推進会議が現在、概ね3か月に1回の開催となっておりますので、基準に則って概ね2か月に1回以上の開催の工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進協議会等で地域包括支援センターの方との意見交換をして協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者とは、制度の対する問い合わせや相談を行い、連携を図っている他、地域包括支援センター職員とも、入居者状況や支払い等に対する相談や助言をいただき、連携をとられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを基に定期的に院内研修を行い職員全員が理解できるよう努めている。夜間以外は玄関の施錠せず、見守り重視に努めている。	マニュアルが整備されており、年に2~3回の研修会で、身体拘束になっていないかの確認を行い、無断外出のみられる利用者については、共通認識のもと、見守り確認で対応され、拘束は行われておりません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の資料を基に院内研修を行い、職員全員が学ぶ機会を持ち、利用者への対応に注意を払いサービスを提供している。又、ケース会議で協議する機会を設けている。		

グループホーム 野崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居申し込みの時点でこの件について、確認をとっている。現在は該当者はいないが、研修等で学ぶ機会があり、必要性があれば、活用して支援をしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約の際、重要事項説明書で説明をし、疑問点を尋ねる等して理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に「家族の意向書」を送付して意見・要望を頂いている。それを参考にしてサービスに反映させている。	面会時や電話での状況報告時に意見や要望をさりげなく伺う他、年に2回、家族等からの意向調査が行われ、運営に反映されております。また、利用者からは、日々の会話の中でさりげなく聞き取りが行われております。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームの運営会議で職員の意見や提案を聞く機会があり、運営に反映させている。	日々の業務の中での意見や提案の他にケース会議で職員の意見や要望を聞く機会を設け、幹部による運営会議で反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給あり。向上心を持って働けるよう、資格を取る場合は休日を与える等してバックアップを図る事としていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て年数に応じた研修に参加して職員の質の向上に努めていく事を目標にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は少ないがネットワークはある。 相互勉強会の通知があった時は参加してサービスの質の向上に努めている。		

グループホーム 野崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問やホームに来ていただき、本人が安心して話しが出来るよう傾聴に配慮しご家族からの情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族よりお小遣いを預かり、その中で本人がおやつを買ったり、職員が代わりに頼まれたものを買ったりして支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの出来ること、出来ないことを把握して、お互いに助け合い協力して生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から相談受付や本人の状態をお便りでお知らせして情報交換し、面会に来ていただく等で家族と共に支えるケアに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係を維持できるように手紙のやり取りや電話をかけられる体制を取り、希望があった時は外出も出来るようにしている。	手紙や電話での関係継続支援や馴染みの場所での買い物、理美容院の活用、墓参り、これまで出かけていた地域行事等、家族等の協力も得て、継続できるように支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し席順等を考慮している。又、コミュニケーションを通し、職員が仲介して孤立しないよう支援に努めている。		

グループホーム 野崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談受付は何時でも出来る体制をとっており、信頼関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とのコミュニケーションを図る都度、話を傾聴している。又、本人の希望を伺いアセスメントを行い、ケアプランに活かしている。	利用者の生活歴を活かし、個々の状態に合わせたコミュニケーションで意向の把握に努められ、困難な場合は、利用者本位に検討が行われ、情報の共有に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者、個々のファイルを準備し、情報、プラン等をまとめており、サービス利用の経過等が一目でわかるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで全職員が統一したケアが出来るようにしている。又、月一回のケース会議で総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様に新たな課題が生じた場合は、再アセスメントを行いケース会議等で話し合い、家族様の意向も確認して介護計画を作成している。	3か月に1回のモニタリングが行われている他、連絡ノートを活用し、利用者の状況変化を共有され、月1回の会議において話し合わせ、随時の見直しを行う等、介護計画に反映されております。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入、本人の訴えや言動をできるだけ詳しく記録して職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

グループホーム 野崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用できるよう様々な機関に協力を得て支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である医療機関と連携し本人・家族の納得が得られる医療が受けられるよう支援している。	本人や家族等の意向を確認され、納得のいく医療機関が受診できるように家族等の協力も得て、支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の定期訪問があり、気軽に相談でき健康管理等の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に安心して過ごされるよう、又、早期退院できるように家族や医療機関の相談員と情報交換を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針の共有をし、状態変化に応じて家族や医療機関と話し合いを行い、合意を得るようにしている。	入居時に継続的な医療が必要となった場合を除き、重度化した場合や終末期のあり方についての説明を行い、方針を共有のもと、支援に取り組まれております。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命士による心肺蘇生の講習会を行ったり急変に備えてのミーティングを必要に応じ行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施、全職員が災害に対応できるように取り組んでいる。又、地域住民に協力を得、参加していただいている。	運営推進会議を通じ、地域の方々への協力依頼や挨拶に回られ、避難訓練への参加が得られております。また、訓練後の意見交換から反省点を見つけ、次に繋げており、詳細な記録もあります。	

グループホーム 野崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に配慮している。	一人ひとりの生活歴や性格を把握され、誇りやプライバシーを損ねることの無いようにその方に合わせた言葉かけやさりげない誘導が行われておりました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中で、話しやすい雰囲気づくりに配慮をし、自己決定できるように選択しやすい働きかけなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間は決めているが希望がある場合は強制せず、本人のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	馴染みの理髪屋さんが来てくれ利用している。又、衣類の購入などは、希望があった場合は家族から了解を得て職員が同行して購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	強制のないように声掛けをするなどして、食材の下処理、盛り付け、配膳、後片付けなど職員と一緒にこなっている。	食材の皮むきや下ごしらえ、食事の片づけ、食器拭き、お絞りたたみ等、利用者一人ひとりのできることのお手伝いをいただき、お代りを進める等、会話も楽しみ、食事が楽しみなものになるように工夫が観られます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、チェック表に記入して把握している。一人ひとりの状態に合わせ提供し、嫌いなものや食べられないものがある場合は代替えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、声掛け、見守り介助している。入れ歯の方は夜間預かり洗浄剤で、消毒等行なっている。		

グループホーム 野崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある場合は定時のトイレ誘導を行い排泄を促して失敗しないよう支援している。	利用者の仕草や態度で排泄パターンを知り、日中はトイレでの排泄に心がけ、さりげない誘導が行われています。また、失禁のみられる自立の方には、プライバシーに配慮され、さりげなく交換を促しております。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態を把握し、状況に応じて対応している。軽体操等は毎日行い、食事も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者からの希望があった場合は時間や日付を変更して対応している。	入浴はいつでも可能ですが、最低でも週2回～3回入浴していただけるように配慮されております。入りたがらない利用者には、足浴や生活歴から言葉の掛け方を工夫される等の場面作りも行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の夜間の状態を申し送りで把握。睡眠不足の場合は昼寝や休息出来るように日中の対応に配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服薬している薬の説明書のファイルがありいつでも確認できるようになっている。変化があった場合は医療との連携を取りいつでも相談できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で楽しみや役割を見出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ドライブや遠足など、外出の機会を作っている。また、家族と出かけた希望があれば職員が連絡を取るなどの支援している。	日常的な散歩の他に、花見やドライブ、レストランでの外食、演劇観賞、ショッピング、自宅訪問、墓参り、理美容室、地域行事への参加等々、事業所での対応の他、家族等の協力も得て出かけられております。	

グループホーム 野崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かり、その中で本人がおやつを買ったり、職員が代わりに頼まれたものを買ったりして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの希望に応じて、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と共に皆が過ごしやすい環境づくりに配慮している。(季節ごとに花を飾ったり入居者様の製作物写真等の展示)	大きな窓から、差し込む光と四季の移ろいが間近に感じられ、食卓の他、ソファやテレビ、観葉植物、手作りの作品や行事時の写真などで温かみのある家庭的な雰囲気を醸し出し、居心地良く過ごせる工夫が観られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホール内にテレビ、ソファ設置。気の合った入居者同士で交流が来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものや好みのものを用意して頂きそれぞれの入居者が思い思いに生活出来ている。	筆筒やテレビ、座テーブル、絨毯、椅子、机、遺影、家族や思い出の写真、作品等、それぞれが思い思いに過ごせるように配置され、居心地の良い空間作りが行われております。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面としては、廊下、トイレ、浴室には手すり設置。居室には表札あり。又、自作の塗り絵を貼るなどして自立した生活が送れるよう工夫している。		